

令和四年度卒業証書授与式 式辞

ここ最近の温かさに、春の息吹を感じるこの佳き日。保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業証書授与式を行うことができることを感謝申し上げます。

本日、加計小学校を巣立っていく17名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。今、皆さんに手渡した「卒業証書」は、「あなたが六年間小学校でがんばった証」です。この証書を手にするまでに、自分を陰ながら支えてくださった多くの方への感謝の気持ちを忘れずにいてください。

さて、私たちは「気づいて考えてやってみる」を目標とし、自分の心の弱さを突き抜け、その先の目標に向かっていくことを合言葉に取り組みました。特に、「自分で学ぶ」「自分たちで学ぶ」を意識して日々の学習や生活を送りました。運動会、マーチング、そして三学期の全校スポーツ大会など、皆さんは、やりたいことを見つけ、実現するために解決しなければならない壁を乗り越えてみせてくれました。その姿は、ここにいる五年生以下、後輩たちも見っていました。よい手本を示してくれたことに感謝しています。

そんな皆さんへ、私から最後に、「自分をしっかり持つ」ことの大切さについてお話します。

先日、引退された車いすのテニスプレーヤー国枝慎吾さんを知っていますか。国枝さんはパラリンピックの車いすテニスで3つの金メダルを獲得するなど、数々の偉業を成し遂げました。国枝さんが若い頃、車いすテニスをやっていると、『車いすでテニスをやっていますすごいね』と言われることがよくあったそうです。そのことについて、国枝さんはこう言われています。「車いすでテニスをやっていることがすごいのではなく、眼鏡が必要なら、眼鏡をかけるように、僕は車いすが必要だから、車いすでスポーツをしている。『スポーツがしたい』と思うから、テニスをしているわけで、「車いす」は、特別なことではないのです。」と。

「自分はどうしたいのか」つまり、「なりたい自分」を持っておくこと。そして、人と自分を比べたりせず、「なりたい自分」に向かって突き進むこと。「できるか・できないか」ではなく、「やるか・やらないか」です。それは誰が決めることでもありません。自分の道を決められるのは自分自身ということを忘れないでください。

もちろん、すべてが自分の力だけでできるようになるわけではありません。今、学校で学んでいることの多くは、ほとんどが「正解のある問い」です。何かで調べれば、答えがわかる問題です。でも、世の中には「誰も正解がわからない問題」がたくさんあります。皆で知恵を出し合い、解決策を考えたとしても、時が立てばその解決策も実は間違っていたということもあるでしょう。例えそうであっても、皆さんには、逃げ出さず、周りの人たちと共に向き合い、その大きな壁を突き抜けていける人であってほしいと思います。ただ、「周りの人たち」と共に取り組むときにも、「自分の思いや考え」をしっかり持つておくが必要です。集団にいれば、誰かが助けてくれますし、何もなくても全体としてできるようになることもあります。もちろん、助け合うことは必要ですが、「自分」が集団の中で埋もれてしまうのはとても残念です。「自分が集団の中で、どんな存在であろうとするのか」を考えられるといいですね。

今、話したことは、以前紹介したラグビーの精神「one for all, all for one. (一人はみんな

のために、みんなはひとりのために)」につながります。周りの人と協調しながら、自分自身をしっかり持って、前に進んで行ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様へ一言お祝い申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。かわいいランドセル姿から、立派に成長した姿を見られ、感慨ひとしおのことと存じます。六年間お子様方をお預かりし、至らない点もたくさんある中、本校教育に多大なるご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。これからもお子様が健やかにたくましく成長されますよう心よりお祈り申し上げます。

名残はつきません。さあ、いよいよ新しい船出です。卒業生の皆さんの未来に、たくさんの幸せが待っていることを祈りつつ、式辞といたします。

令和5年3月17日

安芸太田町立加計小学校長 萩原英子

